

東海大学（台湾）

●学修状況

○Everyday American Conversation（共通教養）

授業内で即興1分間スピーチをしました。発表内容を考えるのに与えられた時間は5分程度です。自分の英語に自信がない上に1分の感覚もわからず、うまくまとめることができなかったのがとても悔しかったです。それ以上に、クラスメートが全員堂々と英語を話していたことに驚きました。

現在英語の教職課程を横浜市立大学で履修していますが、自分のスピーキング能力の低さを痛感しています。正直このままの英語能力で教育実習には行きたくないです。これまで英語の学習は大学や資格の受験勉強ばかりだったので英語の発音を気にかけたことはありませんでした。しかし、英語の発音に自信があればもっと堂々と話すことができると感じます。単語や文法ばかりでなく発音する練習にも取り掛かりたいです。

○Understanding English poetry（共通教養）

音節や似ている音のつながり等、意味だけでなく音の美しさとしての英詩を学びました。意味は日本語に翻訳されますが、音の感覚は翻訳されえません。一文ごとの終わりで韻をふむだけでなく、同じ子音を何度も重ねたり、アクセントのパターンをそろえたり等たくさんの工夫を読み取ることができるようになりました。

また、各言語の声調について先生が話していた時、中国語は4種類なのに対し日本語は2種類であることを私に確認したのですがよくわからず答えることができませんでした。違いを調べてみると、どうやら「橋」と「箸」の差のように日本語は高い低いの2種類だけで意味を区別することができるそうです。英詩の授業なのにここでも日本語の知識が増えることになり面白かったです。

ヤゲウォー大学（ポーランド）

ハロウィンが終わると旧市街はすぐにクリスマスモードに切り替わります。町の中心地には小規模ではありますが、クリスマスマーケットが開かれ、観光客の多いクラクフでは地元民だけでなく、観光客もクリスマスマーケットを楽しみます。

ポーランドでは各主要都市でクリスマスマーケットが開かれ、特にクラクフから電車で約3時間ほどのヴロツワフという都市のマーケットはポーランドで最大級です。私が行った時は気温がとても低く、日によっては-13°Cの日もありました。特にクリスマスマーケットは夜に訪れる機会が多いと思うので、しっかりと防寒していくことおすすめします。ジャケットはもちろんのこと、パンツの下に履くレギンスなどの防寒具などがあればさらに良いと安心です。

12月は学校だけでなく、旅行などが重なり、今までよりも濃厚な一か月になりました。留学して3か月が経ちますが、少し生活に慣れると時間にも余裕が出て、勉強以外の時間が多くなってきました。留学の目的によると思いますが、自分のやりたいことをしないとその時間を浪費してしまうと実感しました。現在は、新たなコミュニティに参加し授業以外の時間をその活動に充てています。旅行やクラブ参加など何か別のことに取り組む時間があると、リフレッシュになると感じます。

これからは勉強をおろそかにせず、新たな活動を両立しながら頑張りたいと思います。



リヨン第3大学（フランス）

11月の下旬から12月初旬まであったテストが終了し、冬休みに入りました。春学期の授業1月3日に始まります。予定通り、春学期はDEUFプログラムに移り、フランス語で授業を受けることになっています。授業を選択する期間がかなり長く設けられているため、さまざまな授業に参加してから正式に選択しようと考えています。正直、不安の方が大きいですが、予習復習を怠らず、周囲の人に助けってもらったりしながら頑張りたいと思います。

冬休みの半分をリヨンとカンタル県内にあるフランス人の親戚宅でそれぞれ過ごしました。リヨンにいた期間は友人とワールド杯を観戦しながら過ごしました。フランスが試合に勝利した後は多くの人が盛大に祝っていました。大広場等には行かなかったものの、私の住む寮の近くの通りで車がクラクションを鳴らしながら通るなど街全体が祝福ムードに変わるのが日本とは少し違って面白かったです。

クリスマスは親戚の家で過ごしました。フランスは日本と違い、お正月よりもクリスマスの方が家族との時間が重視されているということもあり、フランスに住む親戚一同で集まりました。親戚とはスペイン語とフランス語で会話しているため、親戚の家に滞在した期間で自分のフランス語がまたさらに上達したと感ずることができました。

ニューヨーク州立大学ストニーブルック校（米国）

全ての授業で、最終のテストやプレゼンテーションがありました。今学期で一番集中して勉強した月でした。ほとんどの授業で単位を取れましたが、経済学の授業だけは、単位が取れませんでした。基礎的な授業だと思って履修しましたが、発展的な内容だったので難しかったです。留学して初めての学期でしたが、しっかり勉強にも集中できたので悪くなかったと思います。

現在、来学期に履修する授業を決めている最中です。一つだけ、履修が決まっている授業があります。「Elements of Music」という授業で、音楽の理論を学ぶ授業です。ストニーブルックには音楽科があり、クラシックな音楽だけでなく、エンジニアリングについても教えています。音楽のエンジニアリングとは、楽曲の楽器や人の声をレコーディングし終えた後にそれぞれの要素（ピアノやベース、歌声）の音量を調整したりして聞きやすくする作業のことです。友達に聞いたところこの学校の音楽に関する授業はとても役に立つそうで、僕も興味があるのでこの授業を履修することにしました。

ゲーテ大学（ドイツ）

クリスマスマーケットが主役の12月は色々な街（レーゲンスブルクやニュルンベルク）のクリスマスマーケットに友人たちと行きました。売っているものの大枠は同じように見えたが、所々違ってそういった違いを見つけるのも楽しかったです。グリューワインのカップは街ごとにデザインが異なっていて、とてもかわいいです。時には-10℃にもなる街で外に出る楽しみとしてのクリスマスマーケットは必要不可欠なんだ、とも思えました。

寮の友人たちとは定期的にディナーパーティーをやっているのですが、イタリアの友人が作るピザはシンプルなのにとても美味しく、毎回その美味しさに感動してしまいます。日本の唐揚げを作ったときは、揚げた肉がまずいわげがない！ととても人気で嬉しかったです。日本に比べてヴィーガンやベジタリアンの人が多いと感じるヨーロッパですが、この前作った野菜春巻きは好評でした。持ち寄りパーティーの時に、初めて悩まされたトピックですが、これも良い経験になったと思います。

エトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）

12月の上旬には授業が全て終了し、ほとんどの時間を最終試験の準備期間として過ごしました。私自身、コロナの影響で横市では筆記試験を受けた経験がなく、実質的には大学生になってから初めてのテストでした。大学受験ぶりのテスト勉強だったので、どう勉強すべきなのかと苦戦しましたが、今までコツコツ続けていた復習のおかげで授業の振り返り以上のこと（提示された参考資料の読み込みや分からない用語を深掘りするなど）をできたかなと思います。

実施形態は普段の授業のように対面式での実施ではなく、オンライン上での試験でした。試験があるのは基本的にレクチャー方式の授業のみで、私は当初の予定通り3つオンラインの試験がありました。Migrationは授業の内容からの出題がほとんどでしたが、授業一回分の授業スライドが多めなので、自分で消化し切ることが重要だったなと思います。

再試に関して、授業の教授ごとではありますが、基本的にチャンスは3回あり、不合格の場合はもちろん、私のように自分のテスト結果の成績に納得がいかない場合は更なる高得点を目指して複数回受けることが可能です。もし再試で低い点数をとってしまっても、既に合格しているというステータスは残るので安心して再チャレンジすることができます。日本ではあまり馴染みのないシステムですが、1回の勝負強さよりも確実な知識習得を重視している姿勢が感じられるなと思いました。

試験以外に最終課題として、私は2つのエッセイ課題とプレゼンがあります。エッセイは授業に関連があればどんなトピックを選んでも大丈夫ということだったので、今期学んできたハンガリーの移民政策について触れようと思っています。日本の政策とも比較したいです。プレゼンテーションはグループで行う予定です。

ルーヴァン・カトリック大学サンルイブリュッセル校（ベルギー）

1学期の中で特に印象深かった授業は留学生向けの少人数（約20人）の英語のクラスです。担当教員は発音や文法にとっても厳しく、些細な間違いにも鋭く反応し指摘をするため、初めは少し困惑しました。日本では、「間違ってもいいから積極的に英語を使おう」と指導することが多いため、教育方法も国によって様々なのだなと思いました。

そして、非常に衝撃的だった事が、1学期最後の英語の授業で、先生が彼女の自宅にクラスの生徒全員を招待してくれたことです。訪れた家は、大学から徒歩十分ほどのグランプラスにさらに近い場所にある立派なマンションで、歴史的な建物を住宅用のマンションにリノベーションしたものだそうです。これまで現地の住宅を訪れたことが無かったため、とても新鮮でした。お家は生徒が20人入っても余裕があるほど広く、白が基調のまるでモデルルームのような部屋でした。先生は私たちのためにお菓子や飲み物を用意してくれ、授業のことや、ベルギーのこと、先生の家族のことなど様々なトピックについてお話をしました。初めは、まさか先生のお宅にお邪魔するなんて！！と驚きでしたが、ベルギー人のウェルカムな性格や文化の違いを感じました。

